

38 食品等流通持続化モデル総合対策事業

【令和4年度予算概算要求額 285（285）百万円】

＜対策のポイント＞
食品等流通の合理化・高度化を図るため、デジタル化・データ連携による業務の効率化と輸送コストの低減、コールドチェーンの整備、食料品アクセスの確保等、効率的なサプライチェーン・モデルを構築します。

- ＜事業目標＞
- 流通の合理化を進め、飲食料品卸売業における売上高に占める経費の割合を削減（10%〔2030年まで〕）
 - 農林水産物・食品の輸出額の拡大（2兆円〔2025年まで〕、5兆円〔2030年まで〕）

＜事業の内容＞

＜事業イメージ＞

1. デジタル化・データ連携による効率的な食品流通モデルの構築

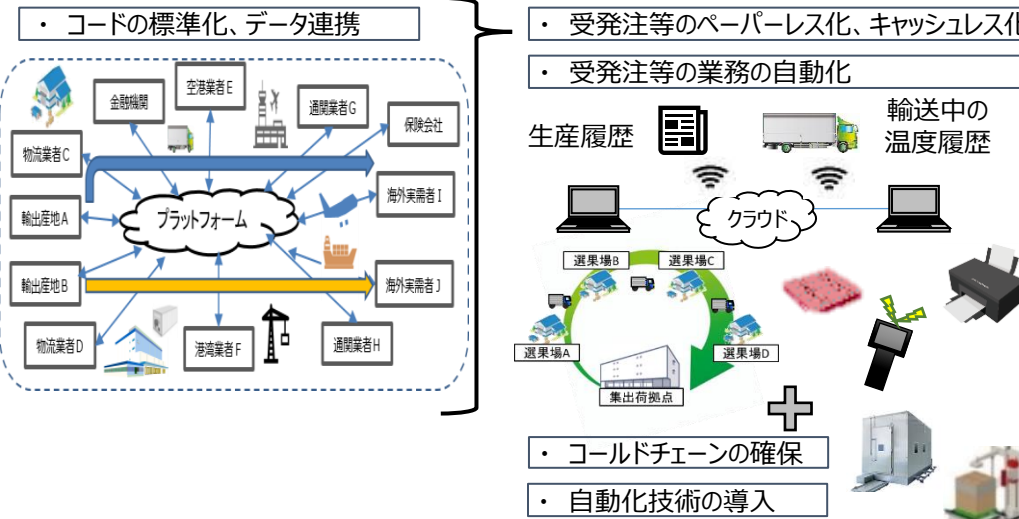
コードを標準化し、デジタル化・データ連携することで、サプライチェーンの全ての者が効率的な流通にアクセス可能となり、**全体の業務を効率化し、コスト低減を実現するモデルを構築**します。

- ① 国際的な標準規格等と調和した、**コードの標準化、システム間データ連携による受発注・トレーサビリティの実証等**の取組モデルを支援します。
- ② ①の取組と合わせて、コード標準化、データ連携による受発注・トレーサビリティの実証等の効果を最大限活用する観点から、**自動化技術の導入、コールドチェーンの確保等**の取組モデルを支援します。

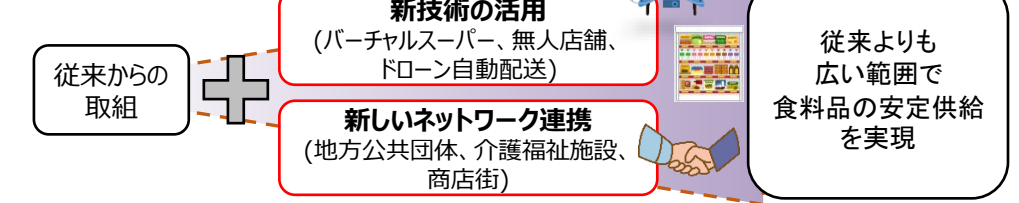
2. 食料品アクセスの確保

食料品アクセスの確保に向けた課題解決のため、**新技術の活用や新しいネットワーク連携**による取組を支援します。

1. デジタル化・データ連携モデル



2. 食料品アクセスの確保



＜事業の流れ＞

